

「2018年度 関東学院大学自己点検・評価」  
に対する評価報告書

関東学院大学 大学評価委員会

2018年12月

## 目 次

はじめに ..... 1

2018年度 GP リスト・タスクリストに対する大学評価委員会の総括 ..... 2

## はじめに

2012年度に関東学院大学評価委員会規程が改正され、2013年度からの大学評価委員会は構成員の半数以上を外部有識者として設置された。改正後の大学評価委員会の任務は、①自己点検・評価に係る点検・評価項目の評価、②自己点検・評価結果の客観性及び妥当性に関する評価、③大学の中長期計画及び年次計画（事業計画）の客観性及び妥当性に関する評価、④その他、学長が必要とする重要事項に関する評価の4項目である。

今回は、②自己点検・評価結果の客観性及び妥当性に関する評価として、『2018年度 関東学院大学 自己点検・評価』に対する評価を行った。大学評価委員会としての所見を集約したものが本評価報告書である。

大学の自己点検・評価報告書は2014年度にシート方式に改められた。また、2017年度よりスケジュールを改め、5月1日を基準日として記述を行い、その結果を次年度の事業計画へ反映できるようにした。また、自己点検・評価シートに記された「長所・特色」、「問題点」から大学全体として共有すべき「長所・特色」、「問題点」が「GPリスト・タスクリスト」として、取りまとめられている。

今回の評価では、個々のGP、タスクに対する所見を記載するとともに、該当する大学基準協会の示す評価基準ごとに総括を行った。そのため、本評価報告書においては、該当する評価基準ごとのみの所見の総括となっている。

今回の大学の自己点検・評価において、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が、一部の学位について策定または公表されていないという状況を認識していた。また、未整備な状況となっている研究科の3ポリシーについて、既に再策定に向けての動きが始まっている。学習成果については、学生個人の学習進捗状況確認表の整備などの取り組みが開始されている。学習成果の評価指標について、いくつかの取り組みが見られ、今後の全学的な検討が望まれる。これらの取り組みが早い段階で実現することに期待する。

なお、本評価報告書は各学部・研究科においてなされた自己点検・評価の2018年5月1日時点についての評価であり、自己点検・評価で明らかになった課題等のうち、それ以降、既に改善対応されている場合もありうる。今後も自己点検・評価活動を通してより良い改善方策が迅速に進むことを期待する。

## **基準2 内部質保証**

大学全体として、手順、方法、スケジュールを定めて、学部・研究科における自己点検・評価を行っていることを評価します。

SDGs との関連性を把握すると同時に SDGs の様々な目標が大学活動の中で実現していくことを期待します。

大学全体として手順を定め、学部・研究科における自己点検・評価をシートにより行うという方式となっていますが、学部・研究科の中で行われた自己点検・評価結果を評価する仕組みが弱いように感じます。今後の整備に期待します。

適切な情報開示は、情報の信頼性を保証する重要な要素のため、体系的な取り組みが速やかに進むことを期待します。

## **基準4 教育課程・学習成果**

学部の独自性を踏まえて、学修ポートフォリオ、卒業生アンケート、学生生活に関するアンケートなど種々の取り組みが行われていることを評価します。

これらの取り組みが全学で共有されると同時に、今後も積極的に各自の取り組みが進められることを期待します。

学習成果を把握するための指標の設定は、カリキュラムの達成度を評価する上で欠かすことのできないものであると考えます。全学的な方針に基づき、各学部において、これらの指標の設定が行われることを期待します。

教育プログラムが日々進化している状況で、体系的な3ポリシーやその実施・評価方法などを整備することは大変な作業ですが、今後も取り組みが進められることを期待します。

## **基準5 学生の受け入れ**

各学部の選抜に関する情報を大学のホームページに公開するなど、選抜試験の透明性・公平性を図っている点の評価します。

公平公正な選抜の実現へ向けての取り組みを継続して行われることを期待します。

外国人・障がい者他、より多くの学生に門戸を開くことが求められている現状において、アドミッション・ポリシーと選抜方法について随時、検証と再構築が実施されることを期待します。

認識している課題を解消するだけでなく、魅力に転じる様な改善を期待します。

## **基準6 教員・教員組織**

FD 活動についての取り組みが多く行われている点の評価します。学部としての取り組み例が情報共有され、全学的に取り組みが広がることを期待します。

授業改善アンケート、公開授業、FD 関連のセミナーにおいては、教員、学生、職員等の多くの参加により、授業改善の効果がより大きくなると思います。今後の参加者増加の取り組みに期待します。

学部全体を視野に入れ、教育力の向上を目指している点について、学部の課題を大学として共有することを期待します。

## 基準7 学生支援

キリスト教の精神を基に、学生を大切にし、学生が問題を抱えた際に、様々なフォローを行っていることを評価します。

様々な取り組みについて、管理主体の部署だけでなく全学的に取り組むことを期待します。継続して実施することを期待します。

学生支援全般に、学内外の協力が必要となるので、より一層広報活動に力を注がれることを期待します。

多様性のある学生支援に期待します。退学を考える学生が減ることは、大学・学生双方にとって良い方向に向かうと思います。

## 基準9 社会連携・社会貢献

各々の社会貢献の取り組みが大学全体の成果として、社会に認知されることに期待します。

## 基準10 大学運営・財務

### 10-1 大学運営

これからの大学運営を支える組織とスタッフの能力開発の効果が現れることを期待します。

本学の教育活動へSDの効果が反映されることに期待します。

### 10-2 財務

短期実施計画を具体化し、中長期計画の実現を確実なものとして、安定した入学者確保とともに、在籍学生数の維持に努めることに期待します。

以上

2018年度 関東学院大学評価委員会

委員長 前田 直樹 (本学理工学部教授)

八木 裕之 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授)

鶴田 智子 (金沢区PTA連絡協議会会長)

金子 賢司 (本学後援会会長)

鈴木 正 (本学燦葉会会長)

南里 竜生 (本学大学経営課自己点検・評価担当課長)